

硫黄島からの遺骨帰還のための特命チーム 第4回会合 議事要旨

日 時：平成23年11月25日（金）10：00～10：45

場 所：官邸3階南会議室

出席者：本多内閣総理大臣補佐官、阿久津民主党総括副幹事長、内閣官房副長官補付内閣参事官（財務担当）、内閣官房副長官補付内閣参事官（厚生労働担当）、内閣官房副長官補付内閣参事官（防衛担当）、外務省北米局北米第一課首席事務官、厚生労働省大臣官房審議官（援護担当）、厚生労働省社会・援護局援護課長、厚生労働省社会・援護局援護企画課外事室長、防衛省大臣官房審議官、防衛省大臣官房文書課長、防衛省経理装備局施設整備課長

議 事：

1. 本多平直内閣総理大臣補佐官挨拶

- 昨年度、特命チームでは、米国での調査により得られた集団埋葬地等の資料により815柱という、近年ない多くの御遺骨の帰還につなげることができた。
- 野田総理からも直接、「遺骨帰還は国の責務であり、しっかりやってほしい」という話があった。
- 先日、短い時間であったが、硫黄島を訪れ、壕等を拝見し、気持ちを新たにしました。
- 3カ年の集中実施期間で大きな成果があげられるよう、関係者の協力をお願いする。

2. 阿久津幸彦衆議院議員（民主党総括副幹事長・前特命チームリーダー）挨拶

- 昨年度、特命チームが大きな成果をあげられたのは、各省庁が省庁の垣根を取り除いて、一丸となって取り組んだからである。
- これからも一丸となってリーダーである本多補佐官を支え、一柱の御遺骨も残すことなくお帰りいただきたいという思いで取り組んでほしい。

3. 厚生労働省から硫黄島遺骨収容の現状等の報告

- 平成22年度に米国資料に基づき実施した収容状況などについて説明。
- 平成23年度の遺骨帰還事業の実施状況（①国内の資料の調査・分析、②米国資料の調査・分析、③遺骨帰還団の募集等）などについて説明。

4. 硫黄島からの遺骨帰還プラン（案）について

- 厚生労働省より、硫黄島からの遺骨帰還プラン（案）について説明。
- 意見交換において、以下のような発言。
 - （防衛省）
 - ・ 防衛省としては、自衛隊の任務を踏まえつつ、最大限、硫黄島からの遺骨帰還プランの実施に当たっていききたい。
 - ・ また、滑走路下の御遺骨・壕の存否を確認する科学的手法の検討に取り組んでいる。
 - （外務省）
 - ・ これまでも、特に在外公館を通じて、米国での調査に協力してきたが、今後も硫黄島からの遺骨帰還プランに沿って、しっかりと協力していききたい。
- 硫黄島からの遺骨帰還プランは原案どおり承認された。
- 本多内閣総理大臣補佐官より、今後、硫黄島からの遺骨帰還プランに基づき、特命チームを中心に、平成25年度までの3年間、政府一体となって硫黄島からの遺骨帰還を集中実施していくとともに、遺骨収容だけでなく、慰霊巡拝についても、回数を増して参加しやすくするなど、関係各省の協力を得て、しっかりと実施していく旨の発言。